

## 職員による自己評価

## A環境面

概ね、環境面に配慮出来ているとの回答であった。利用定員とスペースとの関係では活動によっては狭いなど意見が多かった。

## B児童への支援内容

支援計画の作成、実行、見直し、活動プログラムについてはチームで行っていた。職員間で、その日のうちに振り返りを行ったり、記録を改善に繋げるといった点でどちらともいえないという意見が多かった。

## C関係機関との連携

学校や他事業所との連携は出来ているが専門機関との連携や地域に向けての交流については足りない部分があるとの意見があった。

## D保護者への説明責任・信頼関係

保護者への説明や、苦情についてはしっかり対応できているとの意見が多かった。保護者同士の連携への支援については半数がどちらともいえないという意見であった。

## E非常対応

避難訓練は実施の案内を行い年に 1 回行った。緊急時マニュアル等を保護者全員に周知出来ていないという意見が多かった。

## 保護者による評価

## A環境面

環境面は問題ないとの回答を得た。しかし、実際に環境を見ていないのでわからない、職員体制が適切なかわからない、広さが欲しいという意見があった。

## B児童への支援内容

満足しているとの回答を得た。今後、外に向けてのプログラムも入れてほしいとの要望があった。地域の子どもと交流する機会についてはどちらでもないの回答が多く、なくてもいいとの意見もあった。

## C保護者への説明等

8 割の方からは説明が出来ているとの回答を得た。苦情に対する説明が不十分という意見もあった。

## D満足度

子どもが楽しみにしている。事業所の支援に、満足しているとの回答が 8 割であった。

## D非常対応

非常時や災害時マニュアルの周知、説明ができているか必要な訓練の実施が出来ているかという点で 4 割の方がどちらともいえない、1 割の方が出来ていないという回答であった。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・ 支援についてはニーズ、課題を踏まえたサービス計画を作成した上で日々の支援、活動を行っている中で子どもが通所を楽しみにし、保護者からも満足であるという回答を得られ、職員も日々の支援についてはしっかり行えたという点で合致している。
- ・ 地域の障害がない子どもとの交流はスタッフも保護者も積極的な機会がもたれていないという点、非常時のマニュアルの周知不足という点で共通している。

## 【相違点】

- ・ 大きな相違点はなかった。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- スタッフそれぞれの子どもに対しての見立てを共有しながら、子どもが安心して過ごせるような環境を作っている。
- 多機能型拠点の中にある放課後等デイサービスという点を生かし多職種（医師、看護師、セラピスト等）連携を図ることが出来る。
- 変化のある活動プログラムを実施する事により子どもにとって有意義な時間となるように考えている

### 事業所の改善点

- 日常の様子など保護者への情報発信を増やす。
- 非常時等のマニュアルの周知徹底。
- 可能な地域交流の方法を検討する。

### 事業所の改善への取り組み

- 月の放デイだよりも日常の活動の様子等をもっと載せていく。
- 年度の始めに非常時マニュアルなどの周知を文書にて行っていく。
- 保護者向けのオープン放デイ週間のような期間を設定していく。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

前年度と大きく異なる評価ではなかった。子どもたちや保護者との信頼関係がとても重要であると考えているので今後もコミュニケーションを大切にし、学校や他事業所、各関係機関とも情報共有、連携を継続し、こども一人一人にあった支援に努めていきたい。

事業所名 放課後等デイサービスこまち  
担当者 井上 淳